（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3390100091		
法人名	医療法人　福寿会		
事業所名	グループホーム大福		
所在地	岡山県岡山市南区大福1100-8		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利法人　津高生活支援センター
所在地	岡山市北区松尾209-1
訪問調査日	令和　5　年　10月　　20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・口から食べることの支援（工夫）

・同一法人内のクリニックと連携しての看取り介護

・みんなが笑って過ごせること

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームで食事を手作りしており、1口大にするなどの食事形態を臨機応変に変えて対応出来るようにしています。栄養補助食品も使用したりして、看取り期になっても口からたべることが出来るように一人ひとりに合わせた支援に努めています。同一法人内の24時間体制のかかりつけのクリニックがありますが、状況に応じて家族や医師と相談しながらかかりつけ医以外とも連携して、入居者の生活を支援している様子が窺えます。入居者と職員全員が笑って過ごせる事を大切にしており、ホームの人たちとホーム全体の雰囲気が明るい様子が見受けられます。困りごとがあっても常に笑顔で対応することを意識するように心がけている様子も窺えます。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念はもちろんだが、グループホーム大福としての目標（キャッチフレーズ）を毎年職員みんなで意見を出し合い決め、それを意識して日々の業務に就いている。	法人の理念、グループホームの目標は事務所内に掲示している。いつでも見える位置にあることで、日々意識しながらケアをしている様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来、町内会長さんや民生委員さんを通じて地域との交流しているが新型コロナ流行以降は十分にできていない。	町内会長や民生委員より、ホームの近くで開催されるお祭りやサークル活動への誘いがあったり、日頃からホームを気にかけ声をかけてくれる様子が窺えます。また、地域が求めていることを把握することに努め、貢献できることを検討しています。	ホームが行っている活動を地域の人に知ってもらう方法や貢献できることを町内会長や民生委員と連携することで、地域との交流が増えていくことに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて活かすことはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でご家族や地域の方から出たご意見を活かすよう努力している。	2か月に1回の頻度で運営推進会議を開催し、毎回町内会長や民生委員、家族が2、3組参加し開催しています。家族や地域からの意見で後押しされ、対面での面会を再開するなど意見を反映するよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	こちらから何かを積極的に伝えるということはないが、保健所の巡回指導を受けたりその後のフォローなどやりとりを行っている。	感染症が5類に下がったことで保健所より改めて対応法の教示を受け、ホームの困りごとや知りたいことを聞いてもらうなど、その時の実情に沿った連携を築いている様子が窺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については定期的に勉強会を実施し、自身や互いの認識や理解を再確認する機会としている。玄関、ユニットの入口は施錠している。	玄関、入口、非常階段は感染症対策などもあり現在は施錠しています。年に2回勉強会を計画しており、定期的に行うことで振り返るきっかけとなり、日々のケアの向上にも繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、定期的な勉強会を実施し、自身や互いの日々の介護を振り返り考える機会をもっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についても勉強会で学び理解を深める機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面、口頭で丁寧に説明することを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話等で話をする時に聞くようにしている。家族からの話は職員で共有している。	面会や電話、運営推進会議で意向を聞き、状況に応じて医師や家族に相談を行っています。家族に伝える内容により緊急性の低いものは許可を取ってSNSを活用し、入居者の日々の様子を伝え情報交換を行っている様子が見受けられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時だけでなくいつでも話ができる関係が構築できていると思っている。必要に応じて管理者から法人の小規模事業所責任者へ報告している。	職員と管理者の関係が良好で、日常から意見を伝えたり、相談ができる関係が築けています。管理者は意見や提案の反映に困った時は、小規模事業所責任者に相談し、判断を仰いだりしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人規模が拡大する中、個々の努力や実績等の把握はできていないと感じている。職員からは不満の声は出ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受講を推奨してくれてはいるが日々の勤務を回すのが精一杯でなかなか外部研修に参加する機会を確保できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策を優先し、実施できていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者、介護職員それぞれの立場で本人との関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前だけでなく、入居後も家族の話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けた時にグループホーム入居以外の選択肢についても紹介（説明）するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『できること、やりたいことはしていただく』という意識をもって、安全に注意して取り組んでもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの家族関係や関わり度合い等に配慮しながら協力をお願いしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、電話や手紙の取り次ぎ等の援助を行っている。	家族の付き添いで受診に行った際に、入居者と友達が一緒に食事出来るように家族と連携しています。自己管理で携帯を持っている入居者もおり、関係が途切れないよう一人ひとりの状況に応じて支援している様子が窺えます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて職員が仲介し、互いが関われるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「何かあったらいつでも連絡ください」という声かけは行っている。実際に連絡をくださる家族もいる。スーパーや郵便局で声をかけてくださったりもある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者を中心に、介護職員と共に把握に努めている。	入居者に関わる職員全員で情報収集するようにし、一人ひとりの思いや意向を把握するために、家族や後見人も交えながら本人の思いを検討するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た情報を元に日常生活の中での何気ないひとときに話しを聞き出したりして、点と点が繋がるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤、準夜勤、深夜勤の各勤務時間帯で得た情報や状態を記録し申し送りをし把握、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が中心になり本人に関わる人からの意見を取りまとめ調整し介護計画を作成しているがすべてが反映できていない。	収集した情報を計画作成者が要約し、介護計画を作成しています。職員の思いと入居者の思いの理想とギャップが生じることもありますが、本人本位の介護計画になるように検討している様子が見受けられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報共有はできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者をはじめ介護職員が出来る範囲での対応させてもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所内で完結してしまうことが多く、地域資源との協働まではできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内クリニックがかかりつけ医の方が大半であるが、入居前からのかかりつけ医の受診介助、医師への報告相談等の支援をしている。	入居する際に24時間体制のかかりつけ医をすすめているが、家族の思いや入居者の状態に応じて安心できるようにかかりつけ医との関係継続支援にも努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内クリニックの看護師であるためいつでも何でも相談できアドバイスがもらえるので心強い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が主となり病院関係者と連携しスムーズな入退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時だけでなく、必要に応じて意向を聞いたり再度説明をしたりしている。医師や看護師が専門的な説明をしてくれることもある。	入居時や本人の状況に応じてその都度医療やホームで対応できることを本人、家族に説明し、意向を聞くようにしています。法人内のかかりつけ医は現場が求めていることを聞いたりして、今後の看取り対応に活かせるように協力してチーム支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各パターンに応じた訓練（実地訓練、机上訓練）を行い、町内会とも互いに協力し合うことを確認している。	訓練は年に3回計画しており、過去には運営推進会議にあわせて実施したり、町内（地域）の避難訓練に参加したこともあります。1回はエレベーターが動かなくなる等具体的に想定して訓練を行っている様子が窺えます。定期的に備蓄を確認したり、必要な物を検討しています。	今後も継続して町内会と訓練を行いながら、地域との連携がよりスムーズになるように期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声かけや対応を心がけているがかみ合わないことも多い。	一人ひとりの症状にあわせたり、入居者の思いを尊重した生活が出来るような対応を心がけています。その日の状況で対応が難しい日もあり、距離感や声掛けを変えたり、職員との相性も見ながら対応している様子も窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に応じて、思いを表出しやすいような方法、言葉で働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの一日の流れは決まっているが無理強いや強制することなく生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、必要に応じて整容の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	特別意識はしていないが食べる楽しみを最後まで提供したいと思っている。	最後まで経口摂取ができるように目指して普段から支援するように努めています。日々の中から聞いた話を献立に反映させたり、誕生日や敬老の日には希望を聞いたり仕出しをとって楽しみを提供している様子が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録、体重の変化、排便状況などを把握し、一人ひとりに合った食事形態や量が提供できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣とし、できることは自身で行ってもらい必要に応じた支援をしている。歯科衛生士より指導を受けている人もいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンの把握をし誘導を行っている。	入居者の自尊心に配慮した排泄支援を心がけています。一人ひとりに応じたパットの選定をしたり、おむつ業者からの情報で本人と職員双方が良いものを試したりしている様子が窺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事の摂取量、運動量、薬の影響など便秘の原因を探るよう努めている。飲料ファイバーやオリゴ糖を用いたり、体操に取り組んだりしている。医師の指示のもと下剤を用いることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中入浴を基本としている中で一人ひとりの希望やタイミングに合わせれるようにしている。	週に最低2回は入浴が出来るように考えています。本人の状況にあわせたり、その日の希望に沿った入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッド臥床だけでなく、ホールのソファでくつろいだりできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については薬剤師からの指導を受け、それを全職員に共有、周知徹底できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「これは自分の仕事」と認識し、自信をもってそのことに取り組む方もおられる。個別に「楽しみ」を体験できる機会の提供も可能な限り行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っての支援はできていないが前もって計画を立てて希望に沿った外出支援を行っていきたいと考えている。	感染症の流行もありその日の希望に沿った支援は難しいが、季節ごとのイベントや誕生日での外出を入居者の希望も交えて実施しています。家族からの意向でお墓参りに行くこともあり、今後も入居者や家族の意向に沿って外出計画を立てていけるように検討しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理については家族、後見人にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ、電話をかける支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるような装飾を心がけている。	季節ごとでタペストリーを飾ったり、技能実習生が作成した作品を飾っています。入居者の動線や消防法に配慮してソファや椅子が配置されています。空気清浄機の給水は入居者が行い、職員と入居者の共用の場として生活している様子が窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席だけでなく、ちょっとソファでゆっくりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良さと安全性に考慮し家具等の配置を行っている。	入居時にはなじみの物を持ち込んでもらっていますが、その後の生活に合わせて家族と相談したりしながら、臨機応変に対応している様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	清潔感と安全性に考慮した環境整備を心がけている。		